
松屋でたまに感じるこゝろ

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

松屋でたまに感じること

【Nコード】

N9412X

【作者名】

ごほんライズ

【あらすじ】

接客というのは難しい。明確な解答がない。長い時間をかけて、現場で戦いながら熟成されるもの。

マニユアルは大事だとは思う。例えば、松屋には、客が出口（入口）から出ようとしたとき、元気よくありがとございましたあとドア（お客様）に向かって投げかけるというマニユアルがあると推測される（実際にマニユアルを読んだことないからわかんないけど、みんなしてるんで）

もし、マニユアルがないとどうなるだろう。正社員なら、挨拶の訓練を死ぬほどしてるから自然にできるだろう。しかし、現在はコスト削減のため、ほとんどがアルバイト店員であると思う（松屋の内事情は知らないが、今は大抵の会社は本社に正社員を置き、現場は少数の正社員と多数の非正規で回すという低コストシステムを採用してるので、松屋も例外ではないと思われる。最悪な貧困システムだ。早く破壊して、新しい日本を構築せねばならない）

接客業を長年やってきた末、アルバイトに入ったおばちゃんなら、自然に挨拶はできるかも知れない。しかし、主婦の経験しかないおばちゃんや大学生は、松屋のアルバイトを始めた場合、マニユアルがないと、どうしていいか解らず、黙ってしまいかも知れない。挨拶のない店は不気味だ。そういう意味でマニユアルは必要だ。

しかし、店員に対し、お客様が、ご馳走さまと言った場合はどうだろう。これはマニユアルにない。大抵の店員は無視して、マニユアル通り、お客様が出口に行った時にありがとございましたあと元気よく声をかける。

マニユアル通りにはした。しかし、お客様は気分がよくなったかどうか。感謝されたと思っただろうか。自分が善意でかけたご馳走さまという労いの言葉を無視し、マニユアルだけを守って、自分が出口に来たとき、元気よくありがとございましたあと叫ぶ店員を、客は殺してやりたいと思うに違いない。

マニユアルは単にマニユアルであって、マニユアルだけ守っても意

味がない。それを自分なりに発展させる気迫と技術力が必要だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9412x/>

松屋でたまに感じること

2011年10月26日09時59分発行